

世界遺産への登録をめざす 武家の古都・鎌倉ニュース

第2号 平成19年(2007年)1月発行
発行 鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集 広報部会 編集人 内海恒雄
事務局 〒248-8686 鎌倉市御成町18-10
鎌倉市世界遺産登録推進担当
Tel.0467-61-3848 Fax.0467-23-1085
E-mail: sekaiisan@city.kamakura.kanagawa.jp

鎌倉の仏教寺院と人々の暮らしに新しい視座 初の共催企画『世界遺産シンポジウム』開催



パネルディスカッション風景
(建長寺・得月楼内
応供堂にて)

2006年10月28日(土)、建長寺・応供堂で<武家の古都 鎌倉・連続シンポジウム>が開催されました。同シンポジウムは「鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会」との共催企画で、登録推進協議会としては初の事業です。「鎌倉における仏教寺院～人々の暮らしと鎌倉仏教～」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションが行われ、活発な論議が展開されました。

基調講演は、建長寺派宗務総長・高井正俊さんが「仏教寺院の今と昔」(次ページに要旨を掲載)と題し、建長寺をはじめとする中世鎌倉の仏教の成立について4つの視点から説明されました。そのうえで、「現代鎌倉の仏教寺院と人々のつながりは、法事や拝観になってしまったが、拝観から参加へと進み、皆さんには寺院に来て、宗教的体験をしていただきたい。寺院側も門戸を開く努力をしている。」と、鎌倉の寺院の今後を展望されました。

第2部では「現代鎌倉における仏教寺院と活動」と題してパネルディスカッションが行われました。パネリストに高井さん、服部全志さん(鎌倉青年会議所理事長 青蓮寺副住職) 玉林美男さん(鎌倉市世界遺産登録推進担当)を迎え、登録推進協議会理事の福澤健次さんの進行で進められました。

まず、服部全志さんが若い世代の活動を紹介しました。服部さんは手広・青蓮寺(鎖大師)副住職で、寺内にある宝積院の住職も務めています。同時に青年会議所の皆さんと『鎌倉てらこや』という活動を行っています。『鎌倉

てらこや』は、子供たちが不登校にならないようにすることなどが目的で、鎌倉にある各宗派の寺院並びにキリスト教のカトリック教会も参加しているユニークな活動です。学生や大人のフォローを受けて、寺院等の行事に子供たちが参加することにより、豊かな心を養えることがうかがえました。

また、玉林さんは日ごろの経験から、現代における文化財保護の在り方について、ただ保護しておくのではなく、現代の知恵を出し合って、保全や補修を行うことなどを提言しました。

高井さんは「建長寺の理想は、建築的には創建当時に戻すこと」と前置きして、そのためには寺院だけでなく、市民の理解や行政の力など大きな助けがあることを訴えました。

最後に、一般の人々が古来から参加している寺院の行事についてのそれぞれの寺院を中心にした興味深いお話のあと、今の社会と仏教寺院がどう付き合っていくかが話し合われました。服部さんは伝統を継承しなければならない立場から、青蓮寺再建により次々に判ってくる寺院経営の難しさを語りつつ、ボランティアで市民と関わっていく大切さを述べました。高井さんはこれを受けて、寺院もキリスト教会も問わず鎌倉の宗教界が集まって相談し、皆が参加できる事業、心を育てる事業などを市民と協働で創りだしていくことを提案。超宗派の未来を語るユニークな結論が導かれる中、新しい視座を試みたシンポジウムは、賑やかに幕を閉じました。